

平成27年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現						
年度当初		年度末の目指す姿	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価結果	10月	改善方策		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	改善方策		
1	学力の向上	① 授業改革と学力の向上	<b>【授業評価アンケート結果及び活用】</b> ・生徒の授業満足度、向上し、概ね良好 ・家庭学習時間は1年生が増加、2年生が減少、3年生は増減なし <b>【基礎力診断テスト結果及び課題】</b> ・基礎力不足層は平成25年度より減少傾向にあるものの、意欲喚起に課題 <b>【全国工業高校校長会主催標準テスト結果】</b> ・成績向上に課題 <b>【学習環境の整備】</b> ・ロッカー内、およびロッカー上の整備が向上 ・授業前の着席と挨拶は改善 ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題	<b>【授業改革】</b> ・進路を切り開く主体的な学びを実践 ・80パーセント以上の生徒が授業に満足 <b>【学力の育成】</b> ・進研模試において、SS50以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・専門教育に対応する基礎的な数学力の定着 ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層の減少 <b>【学習環境の整備】</b> ・教室の整備と授業準備を励行 ・「5S」「あさひ」を実践	<b>【授業改革】</b> ・7月に学力向上研修会を実施、アクティブラーニングを一層理解 ・研修を活かして授業を行う職員が増加 ・タブレット端末を導入し、授業や図書館で活用開始 <b>【学力の育成】</b> ・放課後の進学補習、個別指導、課題による基礎学力の定着 ・工業科全科で数学力向上補習を実施、基礎力診断テストにおいて、基礎力不足層が減少 <b>【学習環境の整備】</b> ・5S「あさひ」を指導、座学においても挨拶や服装確認を励行 ・タブレット端末、電子黒板を配備	B	<b>【授業改革】</b> ・10月に第2回学力向上研修会を開催、パネルディスカッションの実施 ・研修会の授業を公開し、多方面からの意見を集約 <b>【学力の育成】</b> ・基礎学力の向上のため、補習の継続 ・大学進学のための補習の充実 <b>【学習環境の整備】</b> ・学習規律の徹底のため、教職員連携の強化 ・ICT活用の一層の推進、好事例の収集と活用	<b>【授業改革】</b> ・10月に第2回学力向上研修会を開催、パネルディスカッションの実施 ・研修会の授業を公開し、多方面からの意見を集約 <b>【学力の育成】</b> ・基礎学力の向上のため、補習の継続 ・大学進学のための補習の充実 <b>【学習環境の整備】</b> ・学習規律の徹底のため、教職員連携の強化 ・ICT活用の一層の推進、好事例の収集と活用	
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	<b>【進路行事等の取り組み】</b> ・担任・教科担任で適宜面談・声かけ等を実施 ・生徒の進路目標の早期設定に課題 <b>【生徒の学習状況(自宅学習調査結果等より)】</b> ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題 ・自主学習を行うためのスペースの確保 ・課題提出等期限厳守に課題 <b>【シラバス】</b> ・評価基準・方法を周知	<b>【学習意欲の喚起】</b> ・基礎学力の定着と向上 ・個々の進路実現に向けて、早期の進路目標の設定 ・多様な進路目標に対応した授業の工夫改善 ・「一人一資格」に向け、資格取得の積極的な呼びかけ ・担任、教科、科、進路指導部との連携による自主的な学習態度の育成	<b>【学習意欲の喚起】</b> ・面談等による生徒個々の進路目標の把握 ・多様な進路目標に対応した授業の工夫改善 ・「一人一資格」に向け、資格取得の積極的な呼びかけ ・担任、教科、科、進路指導部との連携による自主的な学習態度の育成	<b>【学習意欲の喚起】</b> ・年度当初・夏休み明けに担任が面接を実施、また、適宜教科担任等が面談・声掛けを実施 ・専門科の資格取得のための放課後補習及び普通科科目の補習を実施 ・7月の学力向上職員研修会で研究授業を実施	C	<b>【学習意欲の喚起】</b> ・面談の推進 ・資格検定試験・各種外部試験の奨励 ・授業の工夫改善 ・自宅学習計画の指導	<b>【学習意欲の喚起】</b> ・面談の推進 ・資格検定試験・各種外部試験の奨励 ・授業の工夫改善 ・自宅学習計画の指導
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	<b>【人権教育・性教育】</b> ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・性教育LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 <b>【ハイパーQU】</b> ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 <b>【いじめアンケートの活用】</b> ・いじめ問題に早期に対処、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備、悩みを抱えている生徒は少なくなると理解 <b>【人権教育校外研修「一人一研修」】</b> ・9割の職員が「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供を速やかに実施	<b>【人権教育・性教育】</b> ・人権意識が高揚し、他者の人権・存在を尊重できる生徒の増加 <b>【ハイパーQU】</b> ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 <b>【いじめアンケートの活用】</b> ・学校で学習できるが楽しいと思える生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気確立 <b>【人権教育校外研修「一人一研修」】</b> ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科、LHR等に還元	<b>【人権教育・性教育】</b> ・人権意識の高揚し、他者の人権・存在を尊重できる生徒の増加 ・WYSH教育LHRを充実 ・WYSH教育LHR(1年生)をさらに充実 <b>【ハイパーQU】</b> ・ハイパーQUアンケートの分析をし、クラスづくりへ活用 <b>【いじめアンケートの活用】</b> ・いじめアンケートを活用して生徒情報を把握し、関係分掌と情報を共有 ・担当者以外の教職員と専門機関との連携を一層強化 <b>【人権教育校外研修「一人一研修」】</b> ・一人一研修の参加率を9割以上 ・一人一研修を積極的に呼びかけ、講演会等の情報を発信 ・人権LHRの指導案の充実	<b>【人権教育・性教育】</b> ・講演を含めて人権LHRを2回実施、性教育講演会実施 ・ソーシャルスキルLHR実施、1年宿泊研修時に人間関係づくり講座を実施 ・WYSH教育研修会に6名(1年担任5名・相談係)参加 ・各隣保館・人権センター訪問を実施 <b>【ハイパーQU】</b> ・ハイパーQU(1回目)を実施 ・年度当初にクラス目標を設定、職員研修時に達成状況を確認 <b>【いじめアンケートの活用】</b> ・いじめアンケートを2回にわたって実施 <b>【人権教育校外研修「一人一研修」】</b> ・研修の案内を校内webや朝礼で連絡 ・一人一研修参加者は21人、到達率33.3%(10月1日現在)、昨年同時期46.0% ・人権LHRの事前・事後研修実施	C	<b>【人権教育・性教育】</b> ・公開LHRに向けて計画的に事業を実施 ・人権LHRの事前・事後研修を実施 <b>【ハイパーQU】</b> ・クラス目標を指針として、クラスの状況を把握 ・個人面談等も実施 <b>【いじめアンケートの活用】</b> ・個人面談等を取り入れたら、生徒の状況を把握 <b>【人権教育校外研修「一人一研修」】</b> ・一人一研修の声掛けを、全体だけでなく、個人的にも実施 ・各学年間・各分室間の情報交換の活性化	<b>【人権教育・性教育】</b> ・公開LHRに向けて計画的に事業を実施 ・人権LHRの事前・事後研修を実施 <b>【ハイパーQU】</b> ・クラス目標を指針として、クラスの状況を把握 ・個人面談等も実施 <b>【いじめアンケートの活用】</b> ・個人面談等を取り入れたら、生徒の状況を把握 <b>【人権教育校外研修「一人一研修」】</b> ・一人一研修の声掛けを、全体だけでなく、個人的にも実施 ・各学年間・各分室間の情報交換の活性化
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	<b>【基本的生活習慣の確立】</b> ・「5S」「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ちてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髮検査で各回不合格となる生徒が全校で平均約40名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 <b>【ボランティア活動】</b> ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 ・平成26年度実績：テックボランティア20名、またたみの郷ボランティア6名、「ダメ、ゼッタイ」普及運動ボランティア22名、献血街頭キャンペーンボランティア18名、砂丘ボランティア9名、県社協主催ボランティア17名、等 <b>【部活動、生徒会活動】</b> ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 ・平成26年度実績：高校生マナーアップさわやか運動、万引き防止広報活動、校内美化、高校生議会、等 <b>【環境改善】</b> ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 <b>【安全教育】</b> ・昨年度、登下校時の自転車による事故が3件あり、登下校時の交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマホの「校地内での使用禁止」は概ね定着	<b>【基本的生活習慣の確立】</b> ・主体的に自ら対応と学習環境の改善に取り組める生徒の増加 ・いつでもどこでも誰にでも自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身につけた生徒の増加 ・頭髮検査で各回不合格となる生徒が全校で平均約40名 ・正しい制服の着こなしの定着 <b>【ボランティア活動】</b> ・ボランティア活動の参加者、昨年比10%増加 <b>【部活動、生徒会活動】</b> ・各クラス役員の活動の活性化 <b>【環境改善】</b> ・廃棄物は平成23年度比5%減、電力は平成22年度比1%減 <b>【安全教育】</b> ・自分で自分を守る力の向上 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識を習得 ・社会の一員として責任ある行動の実践 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上 ・登下校時の無事故	<b>【基本的生活習慣の確立】</b> ・「5S」「あさひ」の実施 ・生活面における月間目標の設定と推進 ・生徒・職員によるあいさつ運動の推進 ・日常的頭髮・服装指導の徹底 *ネクタイ、カッターの裾に重点 ・頭髮検査の実施と事後指導の徹底 ・問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 <b>【ボランティア活動】</b> ・ボランティア活動の場を広報、奨励 <b>【部活動、生徒会活動】</b> ・各クラス役員の参加行事数の増加 <b>【環境改善】</b> ・廃棄物・電力使用量とも環境改善目標値を達成 <b>【安全教育】</b> ・全職員による朝の交通指導の実施 ・社会の一員として責任ある行動の実践 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上 ・交通安全教室(※安全教室後にアンケート、感想文を実施 ・実験・実習器具等の取扱指導の徹底	<b>【基本的生活習慣の確立】</b> ・生徒への啓発活動実施 ・始業式・終業式等での全校生徒への話 ・月間目標の啓発ポスターの作成、貼付(生徒会執行部との連携) ・自分からあいさつできる生徒が増加 ・頭髮服装検査を3回実施(4月・6月・8月)、不合格者数は各回平均24人 ・カッターの裾出し・減少など制服の着こなし向上 ・駐輪場の点検整備実施、無許可自転車減少、駐輪マナー向上 ・「学年ノート」の活用等、生徒情報の共有による早期対応の実施 <b>【ボランティア活動】</b> ・ボランティア活動への参加 ・ボランティア体験事業参加(1名) ・「ダメ、ゼッタイ」街頭キャンペーン参加(15名) ・献血街頭キャンペーン参加(21名、台風のため中止) ・鳥取砂丘ボランティア除草参加(8名) ・とっとりサイエンスワールド2015ボランティア(41名) ・昨年度より参加人数減(9月末現在) <b>【部活動、生徒会活動】</b> ・全職員活用による生徒会活動の活性化 ・多くの生徒が何らかの部活動に入室 <b>【環境改善】</b> ・管理美化委員によるごみの計量実施 ・廃棄物・電力使用量とも環境改善目標値を達成 ・環境LHRの実施 <b>【安全教育】</b> ・交通安全朝の交通指導の実施 ・全職員による朝の交通指導の実施 ・社会の一員として責任ある行動の実践 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上 ・交通安全教室(※安全教室後にアンケート、感想文を実施 ・実験・実習器具等の取扱指導の徹底	C	<b>【基本的生活習慣の確立】</b> ・学年や各科・他分掌との連携を継続して推進 ・生徒・職員によるあいさつ運動等の実施、生徒会との連携 ・頭髮服装等で基準を満たさない生徒に対する、全職員の統一した対応の推進 ・「学年ノート」への積極的記入の継続的呼びかけによる情報共有のさらなる推進 <b>【ボランティア活動】</b> ・ボランティア活動の情報発信、奨励を引き続き実施 <b>【部活動、生徒会活動】</b> ・クラス役員の活動のさらなる活性化を推進 <b>【環境改善】</b> ・管理美化委員のごみの計量を引き続き実施 ・空き教室の消灯点検等の実施 ・古紙回収の徹底を推進	<b>【基本的生活習慣の確立】</b> ・学年や各科・他分掌との連携を継続して推進 ・生徒・職員によるあいさつ運動等の実施、生徒会との連携 ・頭髮服装等で基準を満たさない生徒に対する、全職員の統一した対応の推進 ・「学年ノート」への積極的記入の継続的呼びかけによる情報共有のさらなる推進 <b>【ボランティア活動】</b> ・ボランティア活動の情報発信、奨励を引き続き実施 <b>【部活動、生徒会活動】</b> ・クラス役員の活動のさらなる活性化を推進 <b>【環境改善】</b> ・管理美化委員のごみの計量を引き続き実施 ・空き教室の消灯点検等の実施 ・古紙回収の徹底を推進
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	<b>【工業技術基礎(共通実習)の充実】</b> ・前年度と比較し、レポート内容指導が必要 ・レポートを期限内に提出できない生徒があるが、各担当科で提出・再提出の指導を行い改善傾向 <b>【人材育成】</b> ・資格・検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・計算技術検定では科と学年が連携、他の資格においても早朝・放課後補習を多くの科で実施した結果、一人一資格取得を概ね達成(測量士補4名合格、計算技術検定合格率85%) ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学を工業関連企業19社・学校関係3校・公共施設6箇所で行った ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施し、ルール・マナーの徹底を指導 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は各科とも定着 ・ものづくりコンテスト中国大会の2部門に各1名出場し、電子回路組立部門で3位入賞と健闘	<b>【工業技術基礎(共通実習)の充実】</b> ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・レポートの書き方と内容の充実 <b>【人材育成】</b> ・3年生までに一人一資格以上を取得 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・「5S」の定着	<b>【工業技術基礎(共通実習)の充実】</b> ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入による指導の実施 ・提出期限について前日に確認の指示 <b>【人材育成】</b> ・資格・検定について意識を高めるガイドブックを配布 ・全生徒の一人一資格を達成に向け、資格取得のための補習を実施 ・キャリア教育実実のため、鳥工版デュアルシステム、企業見学やインターンシップの内容を精進・充実 ・実習や課題研究を中心に5S(整理・整頓・清掃・清潔・検)の指導 ・高校生ものづくりコンテストへの参加の奨励と指導	<b>【工業技術基礎(共通実習)の充実】</b> ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの活用を実施 ・提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導は充実 <b>【人材育成】</b> ・資格取得の補習を、早朝、放課後、夏休みなどに各科で実施 ・全生徒の一人一資格を達成に向け、資格取得のための補習を実施 ・実習や課題研究を中心に5Sを指導 ・高校生ものづくりコンテストに向け、放課後、夏休みを利用した指導	C	<b>【工業技術基礎(共通実習)の充実】</b> ・共通実習のレポート未提出者への指導は、4つの科が連携を密にして情報交換のルールを作成 ・前日のSHRでレポート提出確認指示を実施 <b>【人材育成】</b> ・1授業での検定試験問題への取り組みによる、生徒の興味・関心を引き出す仕掛けづくり ・高校生ものづくりコンテストの成績向上にむけた、指導方法の再検討と早期始動	<b>【工業技術基礎(共通実習)の充実】</b> ・共通実習のレポート未提出者への指導は、4つの科が連携を密にして情報交換のルールを作成 ・前日のSHRでレポート提出確認指示を実施 <b>【人材育成】</b> ・1授業での検定試験問題への取り組みによる、生徒の興味・関心を引き出す仕掛けづくり ・高校生ものづくりコンテストの成績向上にむけた、指導方法の再検討と早期始動
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	<b>【職業意識の育成】</b> ・インターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師を実施、進路LHRを充実 ・外部就職ガイダンス等、進路行事を実施 <b>【進路指導の徹底】</b> ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進学補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・外部模試の結果から対策を考え指導法等に活用 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面接を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進学検討会を7月・11月・1月に実施 ・一次採用試験合格率が82.4%となり、前年度より10%以上向上	<b>【職業意識の育成】</b> ・企業と連携した活動及び校内の進路行事等を通じて職業観、勤労意識を高揚 <b>【進路指導の徹底】</b> ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・就職は一回目の選考試験合格率90%以上、進学は10名以上が国立公立大学に合格	<b>【職業意識の育成】</b> ・働くことの意義の学びを意識したインターンシップ、企業見学、応募前見学、社会人講師の実施 ・社会人となることへの心構えを意識した外部就職ガイダンス等、各種の進路行事への参加 <b>【進路指導の徹底】</b> ・ポートフォリオの研究と活用 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、定期的に自分の進路を検討、再確認 ・理数工学科においては、理数工学科1、理数工学科探究への取組及び高大交流事業・大学訪問を実施し、進路選択を具体化 ・補習や各種の指導、進路行事の実施 ・外部模試の結果を学習フィードバック ・個別進路面接を2年生の3学期から開始、3年生4月時点で進路意識高揚 ・生徒が自己の目標を明確にし、自分の思いを伝えることができるよう面接指導を実施 ・3年生の8月には最終的な進路を決定	<b>【職業意識の育成】</b> ・インターンシップ、企業見学、応募前見学等、校外での進路行事へキャリア教育の観点を意識して参加 <b>【進路指導の徹底】</b> ・ポートフォリオの利用を開始 ・進路希望調査の内容を詳細化 ・進路対象者に平日、土曜補習を実施 ・進学対策の放課後補習を、会議の有無にかかわらず実施するよう変更して実施 ・希望者を募り、岡山大学のオープンキャンパスに参加、生徒のモチベーション向上 ・外部模試の結果をデータ化して職員へフィードバック ・昨年より好調な就職内定率	C	<b>【職業意識の育成】</b> ・引き続き、進路行事へキャリア教育の観点を意識させることを徹底 ・生徒、保護者対象のガイダンスへ地元企業に参加を依頼し、情報把握と理解の促進 <b>【進路指導の徹底】</b> ・ポートフォリオの有効活用の検討 ・進路希望調査の内容をさらなる充実、小学校での実施 ・進学対象者に平日、土曜補習を継続 ・進路LHRや進路希望調査を通じて、早いうちから将来の進路イメージを考えさせる ・外部模試の結果をデータ化して職員へフィードバックすることを継続 ・昨年度以降のキャリア教育の流れの検討と改善	<b>【職業意識の育成】</b> ・引き続き、進路行事へキャリア教育の観点を意識させることを徹底 ・生徒、保護者対象のガイダンスへ地元企業に参加を依頼し、情報把握と理解の促進 <b>【進路指導の徹底】</b> ・ポートフォリオの有効活用の検討 ・進路希望調査の内容をさらなる充実、小学校での実施 ・進学対象者に平日、土曜補習を継続 ・進路LHRや進路希望調査を通じて、早いうちから将来の進路イメージを考えさせる ・外部模試の結果をデータ化して職員へフィードバックすることを継続 ・昨年度以降のキャリア教育の流れの検討と改善
③ 地域や産業界との連携強化	<b>【人材育成】</b> ・各事業の実施により企業との情報交換等、連携を強化 <b>【情報発信】</b> ・各事業の実施や学校HPの更新頻度が向上 ・鳥取県技能振興フェア参加、津/井地区文化祭での製作品展示やものづくり実演を実施 ・出前授業(実施校数6校)や中学生体験入学、鳥工TEC等の実施により科の内容を中学生へPR <b>【地域との連携】</b> ・津/井地域懇談会や清掃活動、マナーアップ運動等の行事を通して、地域との連携を強化 <b>【PTA活動の推進】</b> ・まちこみメールや保護者との連携により学校行事への保護者参加が30%以上増加	<b>【人材育成】</b> ・将来の自分の姿を考え、目標をたてて近づくこととする主体的な生徒の増加 <b>【情報発信】</b> ・学校の取組がわかる学校HPづくり ・出前授業の拡大 ・鳥工TECに対する中学生の興味・関心の向上 <b>【地域との連携】</b> ・各事業の充実 ・地域との連携を生徒が実感 <b>【PTA活動の推進】</b> ・各行事への保護者参加数の増加	<b>【人材育成】</b> ・各事業を継続実施し、生徒への事前事後指導を強化 <b>【情報発信】</b> ・各事業を、学校HPでの情報発信まで含めて計画 ・出前授業の内容充実を図った検討 ・鳥工TECに向けて、鳥工TECをより一層PR <b>【地域との連携】</b> ・慣例にとらわれない各事業の実施 ・あいさつ運動に生徒が参加 <b>【PTA活動の推進】</b> ・まちこみメールやHPを充実するとともに、PTA役員との連携による保護者への案内	<b>【人材育成】</b> ・各事業を継続実施し、生徒への事前事後指導を強化 <b>【情報発信】</b> ・各事業を、学校HPでの情報発信まで含めて計画 ・出前授業の内容充実を図った検討 ・鳥工TECに向けて、鳥工TECをより一層PR <b>【地域との連携】</b> ・慣例にとらわれない各事業の実施 ・あいさつ運動に生徒が参加 <b>【PTA活動の推進】</b> ・まちこみメールやHPを充実するとともに、PTA役員との連携による保護者への案内	C	<b>【人材育成】</b> ・各事業ごとの状況を把握し、生徒への事後指導を強化 <b>【情報発信】</b> ・学校HPを、各科の状況や各事業の取り組みについて更新 ・出前授業の内容のさらなる充実、小学校での実施 ・中学生や地域へ向けた鳥工TECのPRの充実 <b>【地域との連携】</b> ・地元企業の方を講師に招き、進路研修を実施 ・地域連携事業の継続 <b>【PTA活動の推進】</b> ・まちこみメールを活用した積極的な保護者への案内 ・PTA活動の内容充実	<b>【人材育成】</b> ・各事業ごとの状況を把握し、生徒への事後指導を強化 <b>【情報発信】</b> ・学校HPを、各科の状況や各事業の取り組みについて更新 ・出前授業の内容のさらなる充実、小学校での実施 ・中学生や地域へ向けた鳥工TECのPRの充実 <b>【地域との連携】</b> ・地元企業の方を講師に招き、進路研修を実施 ・地域連携事業の継続 <b>【PTA活動の推進】</b> ・まちこみメールを活用した積極的な保護者への案内 ・PTA活動の内容充実		

注) 5S:整理・整頓・清掃・清潔・検 あさひ:挨拶・作法・人の話を聞く WYSH教育:性に関する教育 ハイパーQ-Uアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート

デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC:文化祭における各科のものづくりの紹介

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [20%程度]